

平成 30 年度 研究成果報告書  
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座 講師
氏名 Name	安田麗
専門分野 Academic Field	音声学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	外国語学習における音声習得プロセスに関する研究
<p>ドイツ語学習における英語の転移と干渉に関して、音声習得面の発音能力（生成面）と聞き取り能力（知覚面）について明らかにするために、①基礎的な音声データ資料の作成、②音声データの比較対照、③聴覚実験をおこなった。</p> <p>これまでのデータを補完するために、引き続きドイツ語を第二外国語として学習している人を対象にした発話実験を行った。より多くの音声データの収集と分析を行うことで、より客観的な音声データ資料の作成を目指す。さらに、ドイツ語母語話者の発話データの収集とデータの分析も同様に行った。本年度はこれまで収集した音声データの更なる音響分析を進めた。そして昨年度予備実験として行った聴覚実験を引き続き実施し、ドイツ語母語話者を対象に語末閉鎖子音をどのように知覚しているかを調べた。その結果、ドイツ語母語話者は語末閉鎖子音の綴りが有聲である語については正確に知覚できているとは言えないことがわかった。さらに語末閉鎖子音の種類によっても知覚の正確さが異なり、/g/k/が語末の場合に正答率が高くなる傾向であることがわかった。ドイツ語の発音規則では語末閉鎖子音の有声、無声の対立は無くなるとされているが、直前の母音の長さや子音の閉鎖区間の長さなどの音響的特徴においては 2 語間の違いは存在しており、その違いの大きさは子音の種類によっても異なると考えられた。</p> <p>音響分析では引き続き、英語とドイツ語、ロシア語における語末閉鎖音の有声音と無声音の実現に焦点をあて調査を行い、新たにドイツ語母語話者のドイツ語と英語のデータの分析を進め学習者の結果と比較した。現在までに分析を行った音声データでは、日本語を母語とするドイツ語学習者のドイツ語の発音は、ドイツ語母語話者に比べて語末閉鎖音の無声化が不完全であること、一方、ロシア語学習者の発音はドイツ語学習者に比べて語末閉鎖音の無声化が実現できていることが観察された。さらに英語の発音では、ドイツ語学習者およびドイツ語母語話者、ロシア語学習者による語末閉鎖音の有声音と無声音の差が英語母語話者に比べて明瞭ではないことが観察された。これは、ドイツ語の発音では英語の影響を受けていること、英語の発音ではドイツ語やロシア語の影響を受けていることが考えられ、今後さらに検証していく予定である。</p>	